万　緑　平成２４年度河口湖南中第２学年通信 NO. 15
Ｈ２４．９．１２　　文責　小野　靖

『第 37 回樹光祭
湖南中生のよさ PART　1 』

文化部門より

☆開祭式は太鼓「絆のふもと」、本校にずっとソーラン節を教えに来てくれる塩原良さんが作ってくださった曲で始まった。２・３年生の志願したメンバーだけあって、とても意識の高い発表でした。

体育の部での前打ちにも大いに期待したいです。続いて、１学年発表「富士山頂に台風の砦を」音響の都合でやや聞きにくかった部分もありましたが、地元富士山をテーマにした構成劇でした。映像がとてもリアルで、臨場感があり、困難に取り組む男たちの強い意志がわかりました。

　さて、お待ちかねの２学年発表「Good bye　My・・・」これまで何回もの立ち稽古を重ねたおかげで、入りやセリフ、流れには不安はありませんでした。キャストはアドリブも入るくらいの余裕を見せて、本番に臨みました。あかりのナレーションから音響の入り、スポットがそろって、舞台上に灯りがともります。客席も静かに見守る中、青太・黄郎・桃子・緑のやり取りが続きます。そこに白・黒のからみが入り、幕前での母×２といじめっ子、族たちの演技も舞台に花を添えます。４組の生徒の活躍が光りました。

　全員入場で映像と音声の差が出たけれど、あわてず音を聞いて動いた学年の子たちの合唱「地球の鼓動」もしっかりと歌えました。この劇と合唱に込められた「あきらめちゃいけない」こと「一生懸命・生きる」ことの大切さをあらためて感じさせてもらえたと思います。

家庭科部の発表もオシャレな服の作品を見ることができました。吹奏楽部の発表も先日のステラシアターを彷彿（ほうふつ）とするアナウンスぶりで進行していきました。なかでも夏の吹奏楽コンクールで銀賞をとった「空の回廊」は出だしから調った音を体育館に響かせていました。直子先生のウサギの耳も可憐でしたし、最後の「青いベンチ」はきれいな旋律でした。

３学年発表「Ｓ・Ｓ・Ｓにんげんをかえせ」については、私たちもこれから学んでいく戦争を題材にした平和についての構成劇でした。原爆投下後のヒロシマで隔世被ばくに苦しむさだ子さんの生き方を通して、あらためて「平和」を考えさせられました。

『湖南中生のよさ PART ２』

体育部門より

☆開会式のあと２年は２番目の種目「モノトリー」で幕を開けた。タイヤ・ロープ・竿を男女で奪い合う競技、それぞれの物に応じて得点が違い、９試合に及ぶ熱戦は５組が接戦を制した。チームワークを駆使した戦術も見られ、クラスでの工夫が勝敗を左右した。

続く長縄跳びは中学校学園祭の定番と言っていいだろう。今回は一人ずつ跳んでいく形と全員で跳ぶスタイルを兼ねた競技になっており、それぞれ５分を計３回の合計で競った。ただし、全員で跳ぶ回数は１０倍して加算されるので、どのクラスも気が抜けない。２組がこの本番に練習以上の力を発揮し、自己クラス最高をマークするという快挙を果たした。合計では５組がリード、続く３組がそれを追う展開が続いた。

全校が力を注いだソーラン節、今年は文化でも紹介した塩原良さんが来て下さって、会場の雰囲気はさらに盛り上がった。例年よりも短い時間で集中した踊りができていると感じた。きっと３年生をはじめとしたインストラクターのおかげだと思う。先生方も掛け声をかけて支える働きのできる一体化した全校発表になった。幸いにもアンコールの声がかかり、文化でも発表し

た前打ちから塩原さんも壇上に上がり、「ホンモノ」のソーランと踊ることができた。素晴らしい時間だった。

ムカデ競走。もっとも過酷な競技といってもいい。両足をしばり、男女に分かれ、全員で声をかけて前に進む。自分の思い通りにいかないところをいかにカバーして進むか。学園祭の競技はどこか社会の中の生き方につながっている気がする。不都合や苦手なこと、困難や複雑なことに挑み、それを乗り越えて、一つの目標に到達する。直前にクラスの中で不協和音が出た６組が、担任と自分たちの力でそれを乗り越えたのは、とても象徴的な出来事だったと思う。

最後の競技、全員リレー。ただのリレーでなく全員というところに、この競技の良さがあり、難しさがある。決して足の速い人ばかりでないクラスの中でいかにその順番やその人の苦手意識をなくすか、１００ｍ の中全力で走ればよっぽどの力の差がない限り大きく離されることはない。その緊張をいかに解いてやるかが決め手なのではないかと感じる。その意味できちんとした学級での生活を築いた１組に凱歌があがったことはむしろ当然なのかもしれない。

でも、それらの競技同様によかったのは、最後の３年生のリレーを見ていた２年生、君たちの姿だった。静かにイスの前に並び、自然に集まってレースの成り行きを見守る姿に、この一日をしっかりとやり通した充実感と先輩

の姿を見つめる心を感じた。いい瞬間だった。

まとめとなる閉祭式、この二日間がわずかの時間に編集され、映像として目の前に浮かびあがると、会場は大きな手拍子と歓声に包まれた。これまでいくつもの学校で学園祭のエピローグを見てきたが、このように一体感のある閉祭式は久しぶりだった。映像の一つひとつにこれまでが思い出され、温かい拍手が鳴りやまなかった。
式を締めくくるのは、全校合唱「時を越えて」練習から３年生のリーダーがとてもよい運営で１，２年生をひきたててくれて、とてもバランスのいい歌声になっていた。本番でもその雰囲気のまま、いい歌声が響いた。そして生徒会長の閉祭宣言の時、２年生のよさをまたひとつ見つけた。夏休みにステラシアターで吹奏楽のコンサートを聴いた時、司会の指示する全体の流れの中に乗りきれない弱い点があったけれども、この日の生徒会長のあいさつに温かい拍手で応じることができた。この拍手は２日間を持てる力で乗りきり、３年生のこれまでの努力や仕事ぶりに感謝する拍手のように聞こえた。

１年後、君たちがあのように方が組めるだろうか。あのように話せるだろうか。あのような感動を味わえるだろうか。そう感じた人はたくさんいただろうと思う。今日の感動をもとにお互いの関係をさらに築き上げ、素晴らしい集団として、素晴らしい学校を創り上げていってほしい。そう思わせてくれた３年生、そして生徒会本部、ならびに実行委員会の諸君にあらためてお礼を言いたい。「ありがとうございました」

９月の予定

13日・木　月曜授業
14日・金　火曜授業　短縮昼清掃　校内研　６校時係別会議
15日・土　小立・鳴沢・大嵐小学校運動会
16日・日　鳴沢運動会
17日・月　敬老の日
18日・火　短縮昼清掃　職員会議
19日・水　５・６校時　酪農体験・工場見学事前学習
20日・木
21日・金　避難訓練
24日・月　S短　１・６カット　河教研究会
25日・火　６校時　宿泊しおり読み合わせ
26日・水　宿泊学習結団式　学年集会
27日・木
28日・金　２年宿泊学習　御殿場国立中央青少年自然の家
29日・土　２年宿泊学習　御殿場国立中央青少年自然の家